

千葉県銚子市で掘削された銚子コアの花粉記録を用いた下部—中部更新統境界付近における植生変動の復元（予報）
A vegetation change reconstruction at around the L-M Pleistocene boundary from a pollen record of the CHOSHI core

菅谷 真奈美^{1*}; 菅沼 悠介²; 岡田 誠³
SUGAYA, Manami^{1*}; SUGANUMA, Yusuke²; OKADA, Makoto³

¹茨城大学大学院理工学研究科, ²国立極地研究所, ³茨城大学理学部

¹Graduate school of Sci. and Eng. Ibaraki University, ²National Institute of Polar Research, ³Department of Earth Sciences, Ibaraki University

千葉県市原市田淵（田淵セクション）に露出する上総層群国本層の露頭は、下部-中部更新統境界（L-M境界）GSSP 模式地となっているため、本地層における詳細な花粉記録の復元は重要である。しかし田淵セクションの堆積物は、遠洋性の堆積物であることから花粉密度が薄く、針葉樹花粉が過剰に優占するというように花粉組成が大きく歪んでいることが報告されている（大西, 1969）。そこで本研究では、Okuda et al. (2006) によって L-M 境界上位層準における良質な花粉記録が報告されている銚子コアを用いて、L-M 境界付近における詳細な花粉記録の復元を行うことを目的とする。千葉県銚子市森戸町で掘削された銚子コアは、香取層および犬吠層群の豊里層、倉橋層、横根層、小浜層で構成されている。これらの地層は酸素同位体ステージ (MIS) 25-11 を被覆し、下部-中部更新統境界をは横根層中部に相当する (Kameo et al., 2006)。犬吠層群は田淵セクションの近傍であるため、層序対比が比較的容易であり、L-M 境界の位置を精度良く決定できる。今回は L-M 境界を含む MIS20-18 の区間に相当するコア深度 150-170m の試料について花粉分析を行い、L-M 境界付近の植生変動を議論する。

引用文献

Kameo et al., 2006. *Island Arc*, 15, 366-377.

Okuda et al., 2006. *Island Arc*, 15, 338-354.

Onishi, 1969. *地球科学*, 24, 222-224.

キーワード: 中部—下部更新統境界, 花粉分析

Keywords: Lower-Middle Pleistocene boundary, pollen analysis